

内梨先生、本日は、お忙しい中、貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。

力いっぱい癌と闘われ、短い命を力強く生き、見事に輝かされた真帆さん。真帆さんを懸命に支え、最後まで一緒に闘われ、見守れたご家族。真帆さんとご家族との強い絆、命の尊さに、強く心を打たれました。真帆さんや、弟の翼さん、私たちの四條畷高校には、こんなすばらしい先輩たちがいらっしやることを、深く心に刻み、永遠に語り継いでまいります。

「命どう宝（ぬちどうたから）」

今、私の脳裏には、この言葉が浮かんでいます。沖縄の言葉で、「命こそ宝」。6月23日の「沖縄慰霊の日」に開催された「沖縄全戦没者追悼式」で、小学校6年生の山内玲奈（やまうちれいな）さん（ちょうど、真帆さんが癌を発病された同じ年齢です）が詠まれた、平和の詩「本当の幸せ」の最後の部分を、紹介します。

-----（前略）-----

決して繰り返してはいけないことを

伝え継いでいくことは

今に生きる私たちの使命だ

-----（中略）-----

お金持ちになることや 有名になることが幸せではない

家族と友達と笑い合える毎日こそが 本当の幸せだ

未来に夢を持つことこそが 最高の幸せだ

「命どう宝」（ぬちどうたから）

生きているから笑い合える

生きているから未来がある

令和時代

明日への希望を願う新しい時代が始まった

この幸せをいつまでも

私たちは、夢をあきらめずに、強い気持ちを持ち続け、享年20歳という短い人生を、懸命に、最期まで家族のことを思い続けて、生き抜かれた真帆さん、そして真帆さんを、最期まで支え続けられたご家族のことを、決して忘れず、伝え継いでいきます。そして、真帆先輩の分も、「命こそ宝」として、未来に夢を持ち、その夢をあきらめずに、生きてまいります。

内梨先生、ホントに貴重なお話をありがとうございました。